

令和４年度 第１２回 熊谷市総合戦略有識者会議議事録	
日時・会場	令和４年１０月２６日（水）13:25～ 熊谷市役所６０３会議室（東）
次第	１．開会 ２．議事 （１）第２次熊谷市総合振興計画後期基本計画（案）について （資料１－１・１－２・１－３・１－４・２－１・２－２・３） （２）その他 ３．閉会
資料	【資料１－１】 第２次熊谷市総合振興計画後期基本計画策定のための意識調査 【資料１－２】 市民に対する意識調査概要 【資料１－３】 市内在住高校生アンケート調査概要 【資料１－４】 くまぶらを使用した意識調査 【資料２－１】 第２次熊谷市総合振興計画後期基本計画施策について 【資料２－２】 第２次総合振興計画・後期基本計画 施策の体系図（案）、（現行） 第２次総合振興計画・前期基本計画 施策の体系図 【資料３】 ７つの基本政策
議事録	
委員	（１）第２次熊谷市総合振興計画後期基本計画（案）について ・事務局より資料に基づいて説明。 ・意見・質問は以下の通り。 （１）第２次熊谷市総合振興計画後期基本計画（案）について 高校生のアンケートが興味深いが、アンケート設問はフリートークでなく選択肢から選択する形式か。例えば、４－１－２希望する就職地が市内の理由という設問は事務局で作成してそれに回答する形なので、その他という部分があるのか。
事務局	そのとおり。回答を１１分類し回答していただいた。
委員	その他についての記載がないので、これ以外の意見がないのではと思った。p.2やp.3の「ふつう」とはどういうことか。「ふつう」を肯定的に取るのか、否定的に取るのかで全然違う回答になってしまうのではないか。また、p.6には「その他」に回答している高校生もいるが、記述があったと思う。具体的にどのようなことを書いてくれたのか伺いたい。また、回答者が１校あたり２０人というのはもったいなかったと思う。２０人を選んだ基準は何か。
事務局	市民である高校生の意見を聞きたいというのが一番であった。２０人とした理由は、調整の段階で、授業に影響がない範囲でお願いしたいということで決定した。「ふつう」の選択肢を設けたのは毎年実施している市民アンケートの選択肢に準じ

	たためである。
委員	子どもたちの「ふつう」は普通というよりも否定的な回答と感じる。
事務局	高校生に対するアンケートは今回が初めてなので、今後はいただいた意見を参考にしたい。
事務局	「その他」については3人から回答をいただいております、それぞれの回答は「家族が代々住み続けているから」「家族が心配だから」「親が近くに住んでいると安心するから」で、家族との関係でという回答であった。
委員	それを受け、次回実施する際には「家族」というキーワードを選択しに入れてもよいと思う。
委員	直接的にアンケートのことではないが、今埼玉県は校区というものがなくなって、全県で高校への進学ができるようになっていっていると聞いている。そのため、熊谷の地からもっと都会の学校の方に進学している学生も多いのではないかと。中学生と高校生の行動範囲は全く異なっており、高校生の段階から熊谷を離れた場合、熊谷への愛着への影響はあるのではないかと。高校時代に地元で過ごせるというのは重要なことと思う。そういう意味では地元の高校を大事にして地元の優秀な生徒も地元の学校で学んで大学に進学するとか、そういう中学生に魅力ある高校を作っていただくというのがよいと思う。頭脳が流出してしまっているのではないかと。
事務局	先ほどのアンケートの一つ、くまぶらのアンケートはそのような市外に転出してしまった方の意見も集められるのではないかと期待して実施した。 ただ、これは熊谷から出た人だけでなく熊谷に興味がある人にも登録いただいているので、市外へ転出してしまった方に焦点を絞ってその理由を尋ねることができるわけではないという点が課題である。
委員長	転出してしまう理由の把握にどのような方法が考えられるか。
委員	若い女性が市外に転出してしまうというのは、進学や就職もあると思うが、結婚というライフステージの中で、どうしても男性についていかなければならないという場合もあるし、その場合、男性が住んでいるところで生活をし、そこで子どもを生み育てることになるので、熊谷だけではなく、全国でも起こっているこのようなケースをアウェイ育児というが、自分が生まれ育ったところで育児をするのはあるデータでは7割近くという結果となっている。 このため、熊谷から出産を機に出てしまった人は多いが、逆に熊谷に来て育児している人もいます。熊谷に入ってくる子育て世代を多くすれば、その年代の人はもう少し増えると思うが、御主人の転勤で出て行ってしまうというようなケースは止め

	られないこともあると思う。このように考えると働く場を設けるのが人口の維持に重要であり、雇用を創出する大きな企業が市内に立地し、若い人がいっぱい入ってくる形が人口増の施策としては望ましいが、まだまだ難しい状況であると思う。
委員長	市民アンケートのマトリックスの部分で、重点化領域がそういった問題が含まれた領域となると思う。この辺りを施策として充実していく必要がある。
委員	公共交通の利便性が悪いとか、道路網の整備が十分でないとか、企業誘致がされていないという結果が市民アンケートでは出ているが、マトリックスに整理すると重点化領域にそれらの文言が浮かびあがってこないのは、このような形でまとめるからなのか。意図的にこうなったのか。
事務局	今言われたことは全部ではないが重点化領域の中に入っている。
委員	雇用の促進にフォーカスして発言させていただくが、p.4の重点化領域と、再検討領域の中で雇用の創出に関わるところを見ていたら、番号で言うと20,21,22が商業、工業でちょうど同じところにある。やはり、熊谷に住むと理由としては、近隣の企業に就職をするから住むというのが、結果として非常に高い確率となるのではないかと思う。したがって、企業誘致というのは人口増や人口減少を抑制するための施策としてベーシックな活動となるのではないかと思う。
事務局	熊谷市の企業誘致の支援は充実しているので、周知をもっと図っていくことが重要と考える。産業振興部では、御用聞き便として、毎年全国の1,500社に資料を送付するなどの地道な活動を行っている。
委員	今日ここに来る前に自社工場の竣工式に出席していた。できれば市内に増設したいと思っていたものの、1万坪を超えるような土地は熊谷市では見つからなかったため、上里エリアに土地を求めることとなった。これからの企業誘致ということを考えるならば、総花的な取組ではなく、熊谷市の特徴を明らかにし、こういう企業の立地を求めているなどのポイントを設定することが必要ではないか。カーボンニュートラルでも良いが、何か市の産業として柱を立て、そういうものに対しての支援策等を積極的に行うことが求められていると思う。また、従来からある工業団地を放置してしまうのではなく、再生してどうするかということを考えていただきたい。かなりの技術を持った方がいるにも関わらず、ただ旧態依然のままであることを理由に、風前の灯火になってしまっている工業団地がある。ところが、そういった方々が何をやっているかという、産業とかカーボンニュートラルへの移行に必死で向き合っている。そういう部分に熊谷市がどう支援するか、そしてその周辺事業をどうするか、そういうことの検討をお願いしたいと思う。
事務局	現在策定している総合振興計画の前は、まだカーボンニュートラルという取組が

	浸透していない状況であったが、今、会社ということだけでなく市民生活という部分でも、今回の総合振興計画で環境部門では着目している。今の話は担当部署と協議したいと思う。
委員	大里広域で再整備事業として民間と一緒に力を合わせてやってみるような方向性を作ることが大事である。今後は行政だけで地域の問題に対処するというのは、人口減少により税収が減少するという前提の中で困難と思う。 方向性をしっかり認識し、民間と協力していくことが重要である。力を合わせて取り組んでいかないと、絵に描いた餅のような総合振興計画ができてしまう。
委員長	今回策定しているのは後期基本計画であり、ある程度行政の連続性という観点も求められてくるものであるが、総合振興計画の中でどう反映させていくかを検討することは重要である。
事務局	現在の総合振興計画は、10年計画の前半の5年が今年で終了し、後半の5年の計画策定するにあたって、社会情勢の変化を反映する必要があることや、また市長も替わったことから、市民の付託を受けた市長の政策提言も踏まえながら、今の状況に合ったものに見直していくというのが今回の後期基本計画の策定の目的である。 その際に、大きな柱の部分については、市民生活全般の話なので、それほど大きな変更は予定していない。ただ、その中の細かい考え方や取組については、変えていかなくてもいけないものは変えていく。また、年度毎の事業についても、毎年度実施計画という中で立案し決めて実行しており、ブラッシュアップするように進めている。
委員長	現段階で施策の部分で前期基本計画と比較し新たに加えたものを入れているが、この部分について意見があればお願いしたい。
委員	資料2-2の2、医療体制の充実であるが、熊谷市には周産期医療をする大きな病院がない。また、出生前診断でわかる障害児の出産をカバーできる病院がない。そのような病院は、熊谷市からだ、川越の医療センター、渋川の子ども医療センターが最寄りとなってしまふ。対象者は全体の数からすれば少ないかもしれないが、このような大きな街に周産期医療がないというのは非常に不安なところである。コロナ禍で、そういう出産を控えた妊婦に寄り添って活動をしているが、遠くに通わなければならないとか面会に来てもらえないとか、その後の通院も時間がかかるというところを聞くので、産院やクリニックだけでなく、周産期医療が必要となる出産にも対応できる病院を整備してほしいと思う。以前はそういった医療機関があったということもこういうことを言う理由である。妊娠期から切れ目のない子育てをとということで、市役所本庁舎の6階にも子育て支援センターができているが、それがちゃんと機能している街であるからこそ、周産期医療ができる大きな病院、科を作っていただきたい。

委員	周産期医療に対応するような病院は熊谷総合病院に 10 年位前にあったが、今のところそれを再開する予定はない。また、県北には深谷赤十字病院に周産後医療はあるが、そこも群馬大学の小児科と埼玉医大から小児科医が派遣されていて、産科はある程度あるが小児科が少ないので、周産母子センターと言っても 1,500g 以下のお子さんは診られない。ただ、埼玉県全体としては、そういった時に川越の総合医療センターも含めてバックアップするシステムができていますので、現状ではそれをうまく利用してやっていくしかないかと思う。将来的には熊谷総合病院にすぐに引き取れるような受け皿が必要かと思う。そのあたりは熊谷市医師会としても市や県と協力して進めていきたい。
委員長	周産期医療については前の富岡市長、また今の小林市長も非常に心配しており、病院とも個別に打合せをしている。
委員	資料 2－1 の p.2 で「安全で安心な公共交通の整備を促進する」を削除とあるが、公共交通ネットワークの施策で補うという意味合いかもしれないが、なぜ削除するのか。
事務局	ここは前の計画で載せた理由が、バリアフリーという部分と、ノンステップバスという部分を主な取組として掲載していたが、これらの取組が完了したことをもって削除したものである。そして、公共交通ネットワークの部分に免許返納や交通施策の内容を載せようと考えたことから削除したものであるが、ここは改めて検討させていただきたいと思う。
委員長	今の段階では削除となっているが、要検討ということで、再度確認いただきたい。
委員	商工業の振興とか道路整備にも絡んでくると思うが、先般深谷でアウトレットがオープンした。今後、熊谷が単なる通過点となるのか、あるいはチャンスと捉えて街づくりや施設の整備により立ち寄ってもらえるような街とできるかは大きな課題であると思う。市の活性化のための違うチャンスを見つけていければよいと思う。
委員長	先般市長からも深谷にアウトレットができたが、これは地域全体としてはお客様が来るということなので、それをうまく本市の活性化にもつなげられるような、そういう方策を考えていこうという話をいただいた。交通渋滞の問題があるので、パークアンドライドの一環で駐車場を整備し利用してもらおうという動きもあるが、そういう人をどう本市に持ってくるかという課題もある。 本日はアンケートを中心に意見をいただいたが、いただいた意見を参考に特に単位施策についてはブラッシュアップをしていきたいと考えている。計画は現在策定を進めており、年末には素案を作成し、パブリックコメントを実施したいと考えているので、その際にも意見等あれば積極的にいただきたいと考えている。

	(2) その他 ・ 特に無し 3 閉会
以上	